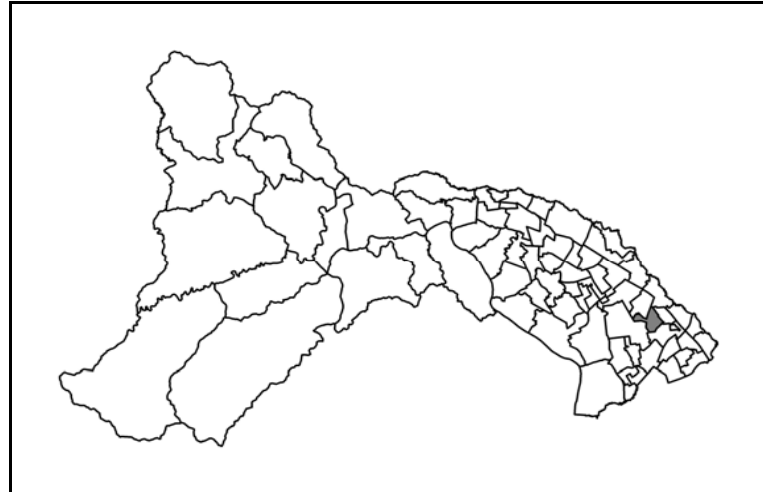


○地区を構成する町丁

【南区】西大沼4丁目、東大沼2丁目～4丁目、若松3丁目～6丁目

○位置図



○地区自治会連合会名(自治会名)

大野中(自治会法人東通り, 田園ハイツ, 東大沼中央, 自治会法人大沼, 若沼, 西大沼中央自治会), 大野南(文京中央)

○地区概況

大部分は平坦な地形である。地区の中央部を県道52号相模原町田線が東西方向に通っている。大部分は住宅地である。住宅は一戸建住宅が中心であり、木造が多い。西部は農地や樹林地が多い。

○建物数・人口

建物		区分		建物 (棟数)	
建物	木造(昭和55年以前)	875	棟		
	木造(昭和56年以降)	1,861	棟		
	非木造(昭和55年以前)	108	棟		
	非木造(昭和56年以降)	381	棟		
	合計	3,224	棟		
人口		区分		人口 (人)	
人口	0～4歳	357	人		
	5～64歳	7,039	人		
	65歳以上	2,756	人		
	合計	10,152	人		

○所見

- ・過去に浸水履歴があり、一部地域では大雨時に内水浸水のおそれがある。
- ・広域避難場所は地区内にはないが、周辺の地区に2箇所あり、いずれも避難距離は短い。
- ・富士山の大規模噴火時には2～30cmの降灰が予測されており、その場合、道路・鉄道の通行不能をはじめ、停電や取水停止など重大な被害を受ける。

○防災関連施設

市役所、まちづくりセンター、出張所等の主な公共施設	大沼連絡所, 大沼公民館
警察署	大沼交番
消防署	
消防団詰所	大沼
病院等	
主な災害時要援護者施設	グループホーム アダージョ, (仮称) 相模原すみれ園
幼稚園、保育園	相模ひまわり幼稚園, 大沼保育園
学校、大学	大沼小学校
避難所	大沼小学校
※洪水時避難所兼用	
洪水時避難所	
広域避難場所	
防災備蓄倉庫	大沼小学校
※広域避難場所対応	
臨時ヘリポート	

○地震被害予測結果

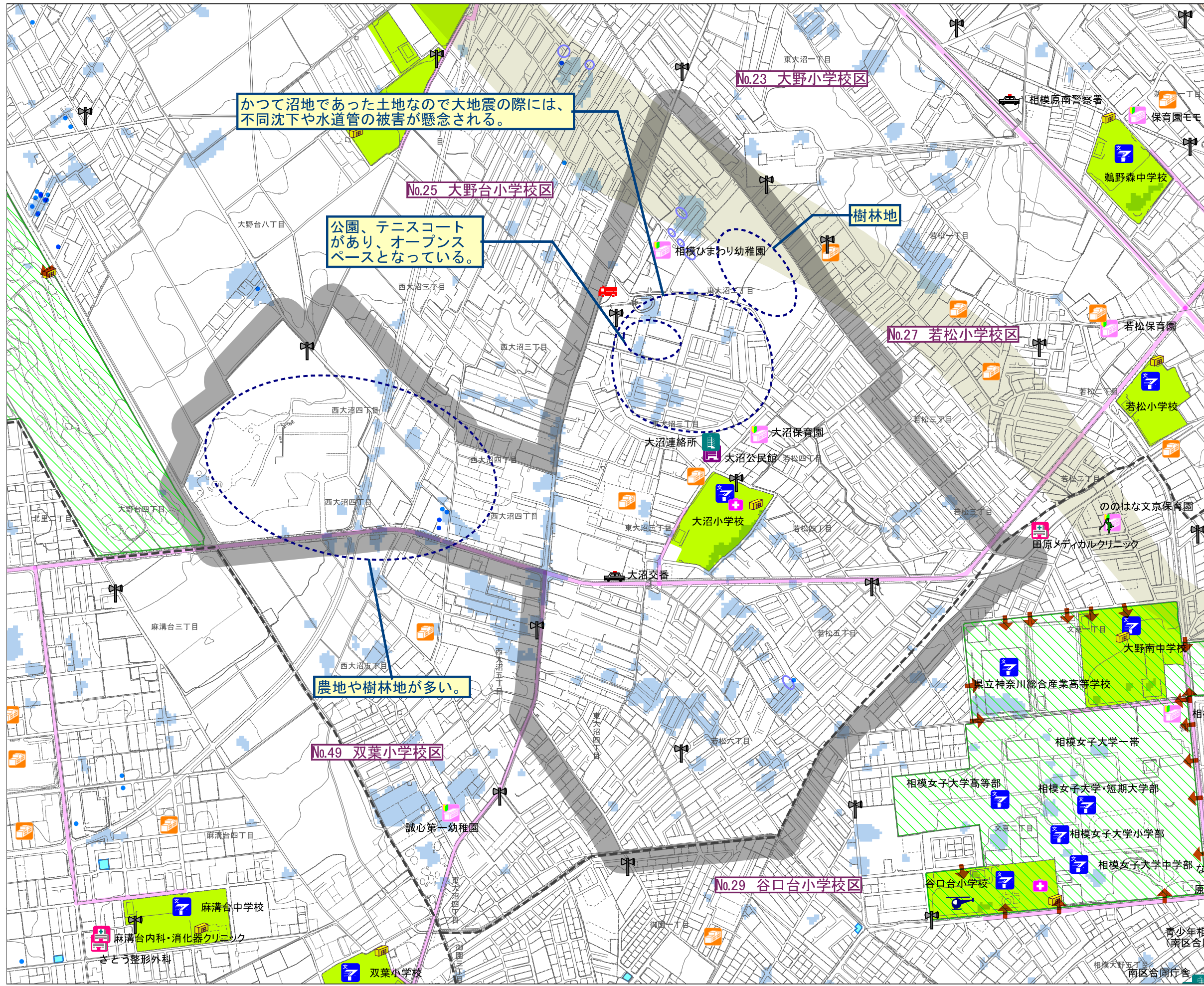
	東部直下地震		西部直下地震		大正関東タイプ地震	
	被害量	比率	被害量	比率	被害量	比率
建物全壊	208 棟	6.4 %	14 棟	0.4 %	30 棟	0.9 %
建物焼失	71 棟	2.2 %	4 棟	0.1 %	0 棟	0.0 %
死者	13 人	0.1 %	1 人	0.0 %	2 人	0.0 %
閉込者	56 人	0.6 %	4 人	0.0 %	8 人	0.1 %
重傷者	14 人	0.1 %	1 人	0.0 %	2 人	0.0 %
軽傷者	76 人	0.7 %	20 人	0.2 %	30 人	0.3 %
避難所避難者(当日)	489 人	4.8 %	56 人	0.5 %	86 人	0.9 %
避難所避難者(1週間後)	902 人	8.9 %	292 人	2.9 %	391 人	3.9 %

○災害危険度評価

危険度評価項目	→危険度が高い
水害	
土砂災害	
地震による地盤災害	
地震による建物被害、火災	

○近年の主な災害履歴

平成 2年 9月30日 床下浸水2戸
平成 3年 9月19日 床下浸水4戸
平成20年 8月28日 床上浸水1戸



かつて沼地であった土地なので大地震の際には、
不同沈下や水道管の被害が懸念される。

公園、テニスコート
があり、オープンス
ペースとなっている。

農地や樹林地が多い。

樹林地

凡 例

防災関連施設等

	市役所、まちづくりセンター等
	公民館、主な公共施設等
	警察署、交番、駐在所
	消防署
	消防団詰所
	病院等
	主な災害時要援護者施設
	幼稚園、保育園
	学校、大学
	避難所・洪水時避難所
	広域避難場所
	広域避難場所への車両進入可能箇所
	救護所
	防災備蓄倉庫
	ひばり放送塔
	雨水調整池
	臨時ヘリポート
	災害時協力井戸
	緊急輸送路
	小学校区境界
	地区自治会連合会境界

地形分類

	山地・丘陵地
	低地
	台地
	台地上の浅い谷
	段丘崖
	山麓堆積地形・扇状地
	人工地形

災害履歴

	浸水があったところ
	土砂災害があったところ

災害危険箇所等

	重要水防区域
	浸水想定区域(河川氾濫)
	浸水想定区域(内水)
	浸水被害警戒地域
	土石流危険渓流
	土石流危険区域
	急傾斜地崩壊危険箇所
	地すべり危険箇所

書き込み欄

みなさんが知っている防災の情報を記入
しましょう(例: 浸水しやすいところ、
防火水槽の位置など)